



協会だより

Japan Tourism Facilities Association

No.137



7月

発行／公益社団法人国際観光施設協会

総務委員会

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋

2-8-5 多幸ビル九段2階

TEL03-3263-4844

FAX03-3263-4845

E-mail : kankou01@syd.odn.ne.jp

URL : http://www.kankou-fa.jp

2022年7月1日

東京2020オリンピック、その後に考えてみたこと

副会長 野出木 貴夫

東京2020オリンピック・パラリンピックが閉会してから早くも1年を迎えようとしている。皆様の記憶も大分薄れてきたのではないだろうか？先月に公開となった河瀬直美監督の公式記録映画も入場者数不振でSNS上では「記録映画も無観客公開か？」と揶揄されている次第です。この原稿を書いている時点で筆者は観られていないのでこの映画の評論は控えさせていただくが、ここで東京2020オリンピック・パラリンピック後に考えたことをいくつかお伝えしたいと思う。

当協会では選手村・ビレッジプラザの使用木材の「ウッドリターン」事業に共感し、アイデアコンペを開催し、多くの秀逸なアイデアを頂いた。又その情報をHPや報告書冊子にて関係者に周知してきた。まだ現時点、実現に至る具体例は聞いていないが、問い合わせは数件届いている。しかし、すでに母材は各自治体に戻っているので実現については今後の各自治体の取り組み姿勢に期待するところである。

ところでコンペ主催者として応募要綱作成時に母材の全リストを拝見する機会があり、細かい部材となり、切断加工された一部資材についてはその活用は難しいだろうと容易に思われた。建屋単位、構造体単位で戻れば再建築含め利用も容易だが、バラバラの部材では活用も難しい。まして各自治体に戻ってしまえば使用される場所も限られる。

今更ではあるが、ウッドリターンする前に、つまり工事開始前に各部材データを一般公開し、再活用先

を公募し、有償にて販売する方法もあったのではないかと思う次第である。そうしておけば活用する場所も可能性も大きく広がり、場合により搬送の負担も軽減されたかもしれない。ある自治体では搬送費自己負担で資材が戻るより東京で再活用される方が宣伝効果もあるのだが、との意見を聞いたことがある。部材データの情報開示はフリマアプリのごとく画像と仕様解説で伝え、値段の交渉も可能とすれば、思いがけない利用者とのマッチングが可能となっていたかもしれない。遅ればせの話ではあるが・・・。

一方で最近ネットニュースにて建材ロス削減するアウトレット事業を起業した「ハブ&ストック」社の記事を興味深く読んだ。建築設計士が孤軍奮闘する有るようで無かった建材アウトレット事業である。テンポスバスターズのように閉店した料飲施設の厨房設備のリサイクル事業はすでに有ったが、建材（内装材）に取り組んだ企業は初めてではないだろうか？これまで古民家の古材リサイクル市場の存在は承知しているが、使用済み木材や余剰調達建材も破棄処分される前に少なくとも一度はリサイクルされる機会を是非与えたいものである。

世の中ネット検索の時代である。閉鎖的な市場の中で行き詰って木材資源を無駄にしてはいないか？そもそも木材はリサイクルに向けた資源である。フリマアプリごとき使い易い建材マッチングアプリがあればいいのだが・・・と思う今日この頃である。

令和4年度通常総会の結果報告

去る6月15日午後、ホテルメトロポリタン・エドモントにて令和4年度通常総会が開催されました。総会に先立ち観光庁より柿沼観光産業課長様にご挨拶をいただきました。総会議案については、滞りなく承認されました。

◇議案◇

- 第1号議案 令和3年度事業報告
- 第2号議案 令和3年度収支決算報告
- 第3号議案 役員の一部選任

★役員の一部選任 報告★

- 第3号議案として理事佐藤英之氏、粉川季雄氏、遠藤幸雄氏の辞任に伴う役員の一部選任を行い原案通り承認されました。
- 理事 青木 幸裕 氏(日本旅館協会 専務理事)
- 理事 有野 一馬 氏(全日本ホテル連盟 専務理事)
- 理事 竹林 正裕 氏(パナソニック株式会社)

議案採決終了後、永年功労者表彰が行われ次の4名(敬称略)の方々が表彰されました。

《委員・幹事永年表彰》田淵 滋、笹澤 秀樹、大村 恒久、勝田 英樹

3年ぶりのリアルでの交流会では観光関係団体より多くの方々のご臨席を賜り、次の方々にご祝辞をいただきました
全日本ホテル連盟会長 清水 嗣能 氏 日本観光振興協会 副理事長 鈴木 昭久 氏 (参加者 135名)

「ホテルが個性を獲得する9つの方向性」

インテリア部会・新情報発信グループ

岩井 秀行

インテリア部会新情報発信グループは5月24日に月刊商店建築編集長の塩田健一氏を講師に「ホテルが個性を獲得する9つの方向性」をテーマに2年ぶりのリアルでの研究会を開催しました。

世界中で移動すること、泊まることに大きな変容が起こり、ホテルに求められるものも大きく変わりました。直近の3年間に編集部が泊まってみて、いいなと思ったホテルを9つの方向性に分けて豊富な写真とともに講義していただきました。その方向性には地域の歴史文化をホテルに取り込んで継承しているものやホテルの開業によって街を再び魅力的にしているケース、住まうように過ごせる新しいジャパンiesz・ラグジュアリーなどがあり、これまでにないタイプのホテルが実はこの3年に次々と元気よく全国にオープンしていた嬉しい事実でもありました。

また、新しい「泊まる」のかたちとしてステイケーション、ホテルのシェア購入や自然環境の中でセカンドハウスとしてサブスクリプション制で利用できる「キャンプ以上別荘未満」といったコンセプトのものなどの紹介もあり、参加者からは内容が濃く、ホテル関係者に明るい道筋の見える講演でしたとの声が上がっていました。

「芝パークホテル」見学会 報告

インテリア部会・宿泊施設見学グループ

柴田 正己

昨年より8日早く関東甲信地方が梅雨入りした去る6月6日(月)、見学者51名、スタッフ13名で施設見学会・セミナーを開催しました。

会場は今なお江戸の風が吹いているような東京は芝の地。創業74年の老舗ホテルで計画された1階部分と宴会場、客室のリニューアル物件でした。

アフターコロナを見据え、女性をコアターゲットに“女性のお客様に好まれる施設”を目指したリニューアル計画とのことでした。セミナーでは田中総支配人様よりホテルの歴史・今回のリブランドのポイント等のお話を頂き、続いてインテリアデザインを担当されたGRID DESIGN 飯野 容子 様よりデザインコンセプト“TIMELESS QUALITY”の説明を受けました。

「人、街、歴史をつなぐLibrary Hotelへ」を象徴するような、書棚に囲まれた古き良き佇まいのホテルのリノベーションに触れ、充実した見学会となりました。

山口由美様ご講演・総会セミナー報告

事業委員長 岡野 正人

6月15日、総会に続き、同じ会場で、セミナーが行われました。今年は、旅行作家の山口由美様をお招きして「日本観光の未来を考える～旅行作家と民泊事業者の視点から～」と題してご講演頂きました。

スリランカの建築家バワのユニークなホテルの紹介に始まり、アフリカのサファリリゾートのお話、そして、コスタリカのエコツーリズム、ナミビア砂漠のホテルなど、興味深いお話は小気味よく進み、珍しい写真も多数ご披露頂きました。また、箱根大平台のヤマグチハウスでの民泊事業のお話では、LINEを使った合理的な運営方法など、山口様のチャレンジな民泊経営が紹介されました。最後に、日本観光の将来について「脱大都市偏重」と「脱おもてなし偏重」という示唆に富むご提言も頂戴しました。

コロナ禍で、3年近く海外旅行できない状況下で、海外の珍しいリゾートのお話は、参加者にとり、正にワクワクした気持ちで聴き入り、感動的な内容でした。このセミナーは、会場、オンライン合わせて、130名の参加者を集め盛会となりました。

セミナー後、山口由美様のご著書「勝てる民泊～ウィズコロナの一軒家宿」のサイン販売会も行われました。

♥編集後記♥

ワクチン接種が進んだ効果でしょうか、コロナの新規感染者や重症者数が多少は減少傾向にあることから入国制限が緩和されて、いよいよインバウンドが再開され始めました。

観光業界にとって待ち続けた状態ですが、感染防止対策を考慮しながらの活動にご苦労が多々あることと思います。私達の活動が観光業界に貢献できますよう全員で取り組んでまいりたいと存じます。

Y. K



観光庁
観光産業課長
柿沼 宏明 様



セミナー講師
山口 由美 様